

□平成 25 年度自然史博物館活動の評価について

(群馬県立自然史博物館専門委員 清水 和夫)

群馬県立自然史博物館の事業活動については、平成 22 年 12 月の「魅力ある博物館を語る会」の提言を受けて、博物館の使命と事業方針を明確にするとともに「活動目標の評価指標表」に基づく事業評価を実施し、課題や改善点を施策に反映しながら適正かつ効果的に進められている。

特に、事業評価において資料の収集・保存と活用、調査研究、展示、教育普及、情報の発信、社会貢献、マネジメントなどの分野に分けて事業内容ごとに詳細な状況分析を行い、職員全員で施策や事業内容の改善に努めている。

資料の収集・保存と活用の分野では、群馬県内の自然史に関する拠点として、貴重な資料の収集や保存が必要であり、展示などの効果的な活用が一層期待される。収蔵施設の充実などの工夫・改善も大切である。

調査研究分野においては、展示などにより県民の利活用に資することを大切にしながら県内にとどまることなく自然史研究の拠点としての役割を果たすべきである。群馬県立自然史博物館の特色を生かした質の高い調査研究の継続が望まれる。

展示に対する工夫は中断なく行われ、来館者数も多少の増減はあるものの施設としての役割を十分果たしている。展示解説に関するアンケートによると、解説業務の満足度は 100%となっており、今後も魅力ある解説と接遇の充実をお願いしたい。

情報の発信と公開については、ホームページやメールマガジンの発信など積極的に取り組んでいることがわかる。今後、更に対象地域を広げたり、利活用の対象者への分かり易い広報に努めたりしながら、最新の魅力ある情報発信を継続していただきたい。

教育普及や社会貢献の分野では、理科好きな幼児・児童・生徒の育成に資する体験的な活動の一層の充実を図りたい。富岡製糸場の見学や尾瀬学校の学習とリンクした連携事業、高校生の SSH 研究校や大学との連携など幅広い活用に供する事業の更なる推進を期待したい。

(平成 26 年 11 月)